

# モーツァルトを聴いても頭はよくなるらない

## Mozart doesn't make you clever

ドイツ政府が「モーツァルト効果」の神話に取り組むことを決意した。

doi:10.1038/news070409-13 / 13 April 2007

Alison Abbott

モーツァルトに限らず、好きな音楽を受動的に聴いているだけでは頭はよくなるらない。しかし、音楽教育によって子どものIQを長期的に高められるかどうかについては、さらなる研究を必要とする。これが、音楽と知能の関係を扱うすべての科学文献を解析した結果として、ドイツ研究省が2007年4月6日に報告した内容である。

今回、ドイツ研究省が調査を委嘱したチームは、ドイツの神経科学者、心理学者、教育学者、哲学者の合計9人から構成されており、その全員が音楽の専門家である。意外なことに、音楽の知能増進効果に関する文献の系統的な調査が行われたのはこれが初めてだった。ドイツ研究省がこのテーマに取り組まなければならないと考えたのは、音楽と知能の関係を研究対象とする補助金申請が殺到していたにもかかわらず、同省にそれを評価する方法がなかったからである。

この科学分野に対する関心が高まる最初のきっかけとなったのが、1993年に*Nature*誌に発表されて物議をかもした研究論文<sup>1</sup>だった。この論文で、カリフォルニア大学アーバイン校（米国）の心理学者 Frances Rauscher たちは、モーツァルトの音楽を10分間聴いた後パターン認識や紙の折り畳みといった空間課題を行うと、その成績が上がる、と主張した。

その後に行われた多くの研究が、この「モーツァルト効果」に対して疑問を投げかけてきた。しかし、音楽業界や一部の私立学校は、長い間、「モーツァルト効果」をマーケティングの手段として利用し続けた。猛威をふるう商業主義の中で、研究データはしばしば拡大解釈され、音楽を受動的に聴くことと能



モーツァルトを聴くだけでは天才にはなれない？

動的に練習することが一緒にされることも少なくなかった。

「私たちはすべての文献にあたって、どの論点が未解決なのかを調べた」。こう話すのは、フンボルト大学（ドイツ、ベルリン）で哲学を専攻し、ピアノも弾ける Ralph Schumacher だ。彼が、今回の報告書の筆頭著者である。この報告書では、Rauscher が唱えた「モーツァルト効果」に対する死亡宣告が行われた。

音楽鑑賞が知能に与える影響に関する研究は、音楽の研究者によって「モーツァルトのレクイエム（鎮魂曲）」というニックネームで総称され、そのほとんどは、研究結果に再現性がないか、鑑賞後20分間も持続しない一時的な効果しか確認できなかった。しかも、その一時的な効果でさえモーツァルトの音楽に特有のものではなく、被験者が好むタイプの音楽の鑑賞や物語の読み聞かせによっても同様の効果が確認された。

しかし、音楽のレッスンが（特に幼児

の）IQの発達を促すとする主張については、あまり強く否定されていない。これまでの研究は規模が小さく、解釈のむずかしいものがほとんどであり、IQに対する長期的効果がないことを示唆するものもあった。「それでも、慎重に実施された1つか2つの大規模研究で、IQに対する小さいながらも有意な効果が何年にもわたって継続することが示されていた」と Schumacher はいう。

とはいえ、今後の研究で音楽教育の効果が確認されたとしても、自分の子どもを天才に育てられる可能性は非常に低いことを Schumacher は認めている。「音楽教育によって子どもを天才にできるなら、今ある文献でもっと明確に示されているはず。もし音楽教育にこのような効果があるのなら、私は脳の中で効果をもたらす過程を解明することに最も興味がある」と彼は語った。 ■

1. Rauscher F.H., et al. *Nature*, 365, 611 (1993).